資料３－①

「象山文庫」等郷土資料のデジタル化について

## １．背景と目的

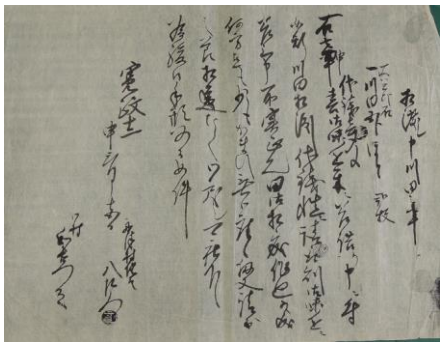
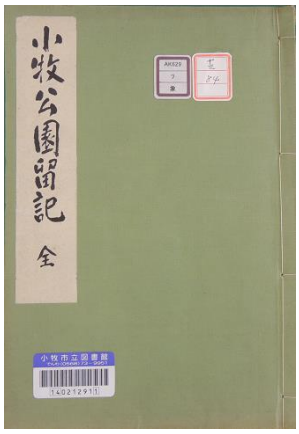
図書館では「象山文庫」等郷土資料を所蔵しており、蔵書検索もできますが、資料の劣化防止の観点から閉架書庫で保管しているため、来館者の目に触れる機会がほとんどないのが現状です。

そこで新図書館の開館に合わせてこれらの資料のデジタル化を行いたいと考えています。デジタル化することにより、電子データとして半永久的に資料を保存することが可能になるとともに、インターネット上で資料を公開することで、小牧市の郷土資料の情報発信や、研究機関等の調査・研究の一助となることが期待されます。

## ２．対象資料

今回は「象山文庫」の中でも特筆すべき特徴のある資料を選択して約 100 種をデジタル化したいと考えています。これらは津田応助[1]が生涯を費やして筆写、収集したものや、自ら編著したものです。現在では原本が失われたものもあり、貴重な研究資料となっています。

| 番号 | 資料名 | 写真 | 説明 |
|---|---|---|---|
| ① | 『小牧山合戦史蹟写真帖』※ほか写真集・絵葉書 12 種 | | 津田応助は「小牧・長久手の戦い」に格別の思い入れがあり、自ら史蹟を訪ねて撮影し作成した写真帖に細密の文字で行軍の場面を書き込んだ。大正 10 年作成。 |
| ② | 『小牧宿古図』ほか絵図・軸類 10 種 | | 津田応助は書画を得意とし、どんな資料も精力的に筆写した。これは昔の小牧宿の絵図の写し（部分）。原本は徳川侯爵家のものという。昭和 8 年の識語。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ③ | 「相渡し申川田之事」ほかの古文書 13 種 |  | 象山文庫で収集された古文書は多くないが、そのほとんどは「小牧近世文書研究会」によって翻刻されている。 |
| ④ | 『小牧公園留記』※ほか筆写和装本 60 種 |  | 元愛知県庁の文書「小牧山公園留記」が徳川義親に寄付され、それを借り受けて筆写した資料。<br>旧本陣江崎佑八所蔵の「小牧山旧記」との合本。昭和 7 年の識語あり。 |

※名古屋大学の羽賀研究室より撮影画像の提供あり。

## ３．今後の方針

象山文庫には今回選定した資料のほかにも貴重な資料が多数あり、新図書館開館後も計画的にデジタル化を進めていきたいと考えています。なかでも名古屋温故会[ii]の絵葉書や、名古屋中央放送局で昭和初期に放送されていたラジオの講演原稿[iii]は特に貴重です。また、生涯学習課から移管を受けた「信長文庫」の錦絵、市の広報フィルムやビデオテープなどをデジタル化することも有意義であると考えています。

---

[i] 資料１－②「小牧市立としょかん　子ども郷土しりょう」（平成 25 年 1 月から平成 27 年 3 月までの間、小牧市立図書館が発行していた児童向け郷土資料案内）参照。

[ii] 大正 5 年に若山善三郎（1880～1944）を中心に発足した郷土史研究団体で、毎月各地で例会を開催し、文化財の見学や研究を行っていた。その際会員に頒布するため、絵葉書を刊行しており、全 220 輯のうち当館には 204 輯の所蔵が確認できている。

[iii] 「ラジオ講演二種」（名古屋中央放送局全国中継ラジオ講演「郷土の戦跡を訪ねて小牧長久手の戦い」（昭和 12 年 10 月 3 日午後 9 時～9 時 30 分）、同局日曜特別講座「秋の戦話天正小牧役」（昭和 10 年 10 月 6 日午後 7 時 30 分～8 時）などの資料が残されている。